

僕が考える人権とは

岐阜市立青山中学校 一年 ビスワス カルニク

僕は、日本とバングラディッシュの二つの国籍をもっています。父と母は大学卒業後に結婚し、三年後に岐阜大学に留学しました。そして、その同じ年に僕が生まれました。

幼稚園に入る前の家での会話はバングラ語で、バングラのゲームをして遊んでいたと思います。日本語を覚えたのは、幼稚園から小学校にかけての期間だと記憶しています。父や母も僕との会話で少しずつ日本語を覚えていきました。今でも日本語の勉強を続けてきて、三年前に二人とも日本国籍「永住権のために」を取得しました。僕の場合は、十八歳になったときにどちらか一つの国籍を選ぶのだそうです。父と母がバングラディッシュから日本に国籍を変えたからといって、僕にとっては今までと変わらない父と母です。今まで通り、家での会話はバングラ語を中心にしていますが、日本語と英語の学びは続けています。父母にとって、日本の文化や習慣も大切で、僕にとってはバングラの文化や習慣を学ぶことが大切だと感じています。

僕が小学生のころは、両親はいつも僕が学校でいじめられていないかを心配してくれていました。僕は、自分自身が日本人と変わらないと思っていたけれど、小学生のときに、容姿のことで嫌がらせを受けたことがあります。その都度、父や担任の先生に話したり、嫌なことをしてくる相手に「やめて！」と、はっきり言葉に出して伝えたりすることで大事にならずにすみました。自分が嫌だと感じたことを相手に伝えることで、偏見や差別はなくなるのだと思います。

中学生になってからは、他の小学校区からの仲間も増え、お互いの趣味や特技などを知ることによって多くの友人を得ることができました。このまま楽しい中学校生活を続けられたらいいと思います。

今、日本には約273万人の外国人が住んでいるそうです。僕の住んでいる岐阜県にもフィリピン、中国、ブラジル、東南アジアの国々の人が多く住んでいます。色々な文化や生活習慣の違いはあっても、同じ地球に生まれた人間であることには違いないので、会話を通して相手を理解したり、自分のことを分かってもらったりして、差別のない世界を築いていきたいです。

僕は、コミュニケーションの中心は会話だと思っています。人を喜ばすのは言葉、人を悲しませたり傷つけたりするのも言葉次第です。自分が嫌なことをされた時には、その行動を止めることができました。しかし、ほかの誰かがいじめられているときに止められる自信はまだありません。恐らく、関わりたくないとか、自分もいじめられるかもしれないなどと思ってしまうかもしれません。でも、それではいじめや差別のない社会を創ることはできないでしょう。仲間を守るために声を上げないのは、見て見ぬふりをして自分も相手をいじめているのと同じです。

今、世界中で起こっている戦争や紛争の始まりは、対話の不足や自己中心的な考えから起こっていると思います。もっともっと言葉を通してお互いを受け入れ、理解しあえば争いはなくなるでしょう。

戦争も平和も人の心が作り出したものであり、身近な人との争いが大きな紛争につながります。平和を築くためには身近な人とのより良い関係を広げていくことが大切だと思います。

ます。

僕がバングラ国籍であろうと日本国籍であろうと、国籍に関係なく、今住んでいる地域の友人や知人とお互いに理解していくために対話をして、自分も相手も大切にすする行動をする勇気のもてる自分になりたいです。

中学生になってから、人権学習をする中で差別には人種や国籍の差別だけではなく、様々な差別があることを知りました。人権とは「人が人として、社会の中で自由に考え、自由に行動し、幸福に暮らせる権利」であり「すべての人が生まれながらにして持っている権利」です。これから僕は、様々な人権について学び、世界中の人々が明るく楽しく暮らせる社会を創るための一人になっていきたいです。

これから起こりうる様々な人権問題について、学校だけでなく、家庭で両親と会話を重ね、考えを深めていきたいです。